

▶ 第6回目となる今回は、山梨県立産業技術短期大学校 情報技術科 1年 前田エイジさんが、株式会社ワイ・シー・シー 代表取締役社長 長坂正彦氏を取材しました。



学生

山梨県立産業技術短期大学校
情報技術科

1年 前田 エイジ さん

▶ 学生

御社の概要と事業内容を教えてください。

▶ 経営者

設立は昭和41年。大型汎用コンピュータがまだ山梨県に一台もなかった時代に、コンピュータを利用して効率化し、あるいはネットワークを通じて情報をやり取りする社会が来るだろうと予見して計算センターを立ち上げました。「コンピュータを駆使して社会の価値を創造しよう」というのが、創業時の熱い思いであり、会社の理念です。

当時、山梨のような地方都市の主産業は農業で、一番最初の仕事は農家の精算業務をコンピュータ処理しようというものでした。その後、行政、自治体、学校、病院、社会保障、一般企業等でコンピュータをうまく利用して生産性を上げようとか、いい街づくりをしていくのが私どもの仕事になり、最近では当社のデータセンターを活用しネットワークで結んで、俗に言うクラウドコンピューティングというサービスもやっています。

子育てや高齢者福祉、医療、学校教育、税金など、法律や国の制度がどんどん変わっていく中で、ITによる仕組みの構築、社会になくてはならない情報インフラづくりを目指して、日本全国どこでも対応しています。

▶ 学生

どのような学生を採用したいですか？

▶ 経営者

コンピュータの基礎知識を学生時代に身に付けてもらうのも大事ですけど、苦しいときにがんばろうという気持ち、どの社会にいても我慢することが必要になりますよね、思い通りにいき

苦しいときは初心に戻り、 前向きにがんばる姿勢が大事

経営者

株式会社 ワイ・シー・シー
代表取締役社長

長坂 正彦 氏



ませんから。そのときに、自分たちが生まれ住んだところを本当によくしたいという気持ち、ふるさとを愛する気持ちを学生時代から持っていてほしい。それと同時に、大きな夢が描ける魅力のある学生かどうか、当然グローバルにも活躍していただきたい。自分たちのふるさとを愛すると同時に、ふるさとから外に出る覚悟があって、ふるさとを客観的に見る、そうやって人間として成長していけるような、少々のことでは物事に動じないし失敗も恐れない、そういう強くたくましい学生に来て欲しい。

▶ 学生

これまでに苦労したことを、どのように乗り切ってきましたか？

▶ 経営者

今振り返ればここがターニングポイントかなってところはありませんけど、その時点では、「必死になって前向きに誠実に取り組む」ことですね。結果的に道が開けるのであって。創業者が15年誌に書いた言葉が強く印象に残っています。「物事の進歩とか英知は苦しいとき、困難などきになしとげられる」と。とにかく先頭に立って困難に立ち向かうという気持ち、これさえあれば大概のことは成し遂げられるのではないかな。私も、失敗の

数々は多岐にわたっていますが、苦しいときはいつも「初心に戻ろう」と思っています。

▶ 学生

この先ソフトウェア業界はどのようになるとお考えですか？

▶ 経営者

「ビッグデータ」という言葉がありますが、私たちの豊かな生活を実現するため、コンピュータの利活用はますます進展してくると思います。

ひとつは技術的な背景として、スーパーコンピュータの進歩により、世の中にいろいろあふれている情報が、全部電子化され蓄積されてきたときに、より豊かな社会づくりのために、いかに優れた仕組みを構築するかが重要なテーマになります。

もうひとつは、サイバー戦争とか、個人データの流失や悪用など、弊害をどうやって防止するかが大きな課題となります。

利便性の追求だけではなくて、社会的に予想されるトラブルや弊害への対応も課題になってくるということです。夢がある一方で、一歩間違えると社会の混乱を引き起こす。今後、業界はその両面に留意していかなければなりません。



取材を終えて…

初めての取材でしたが、緊張することもなく質問できました。特にビッグデータについてわかりやすく解説していただきました。社長が言われたように、山梨県内がクラウドコンピューティング化され、どこでも仕事ができるような環境づくりに私も貢献できるようにがんばりたいと思います。